



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和8年度スポーツ産業の成長促進事業「スポーツホスピタリティ推進事業」

支援希望団体の募集

スポーツホスピタリティに取り組むスポーツコンテンツホルダーを、専門家が伴走支援いたします。

伴走支援 実施・募集概要

1. 実施趣旨、募集対象

Purpose of the program & Eligible Participants

2. 伴走支援の内容

Support program details

3. エントリーについて

Application process

■実施趣旨

スポーツ観戦者に対して高い付加価値を提供する「スポーツホスピタリティ」は、新たな観戦スタイルとして単にスポーツコンテンツホルダーの新たな収入源となり得るだけでなく、周辺産業への経済効果の波及・地域活性化等の社会的価値の向上に資することが期待されますが、国内での普及状況は未だ十分とは言い難く、その課題としてスポーツコンテンツホルダーの「情報不足・経験不足」等が挙げられます。

そこで本事業では、スポーツコンテンツホルダーの皆様が検討・計画中のスポーツホスピタリティの実施内容を、より効果的かつ他のスポーツコンテンツホルダーにとって有用な好事例となるよう、後述の支援テーマに関わる企画及びスポーツホスピタリティ全体の計画策定について、知見者・専門家によるアドバイス等を提供する「伴走支援」を行うこととしました。

この度、スポーツホスピタリティの伴走支援を希望する団体の募集を行います。
(※応募団体の取組を審査の上で、支援対象を選出します。)

【支援募集対象団体】

・スポーツコンテンツホルダー

(プロスポーツリーグ・チーム及びオーナー企業、
競技団体、スポーツ大会主催者等

【支援対象となる取組】

- ・スポーツコンテンツホルダーが行う(※1)有料で販売を行う新たなスポーツホスピタリティの取組。
- ・令和9年2月までに実施を完了し、実施を通じて得た課題・改善点等をレポートすることが可能な取組。(※2)
- ・題材となるスポーツ及び当該スポーツファンの特性や、開催地域の魅力を活かした取組。
- ・今後、各団体・企業へ横展開することができたり、新たな取組創出におけるヒントや知見・ノウハウとなり得ると見込まれる取組。(※3)

(※1) 本公募では、応募の代表団体はスポーツコンテンツホルダーとさせていただきます。スポーツコンテンツホルダーは、必要に応じてホスピタリティ専門会社、イベント会社、旅行会社、スポーツコミッション等として連携して取り組むものとします。

(※2) レポート事項及びフォーマットは、事務局より支援対象団体に支給いたします。

(※3) 本事業は様々なスポーツコンテンツホルダーにとって汎用性の高い先進事例の形成に対する支援を目的としています。
今後の他団体・他企業への横展開や波及効果が期待出来る取組を重視します。

伴走支援 実施・募集概要

1. 実施趣旨、募集対象

Purpose of the program & Eligible Participants

2. 伴走支援の内容

Support program details

3. エントリーについて

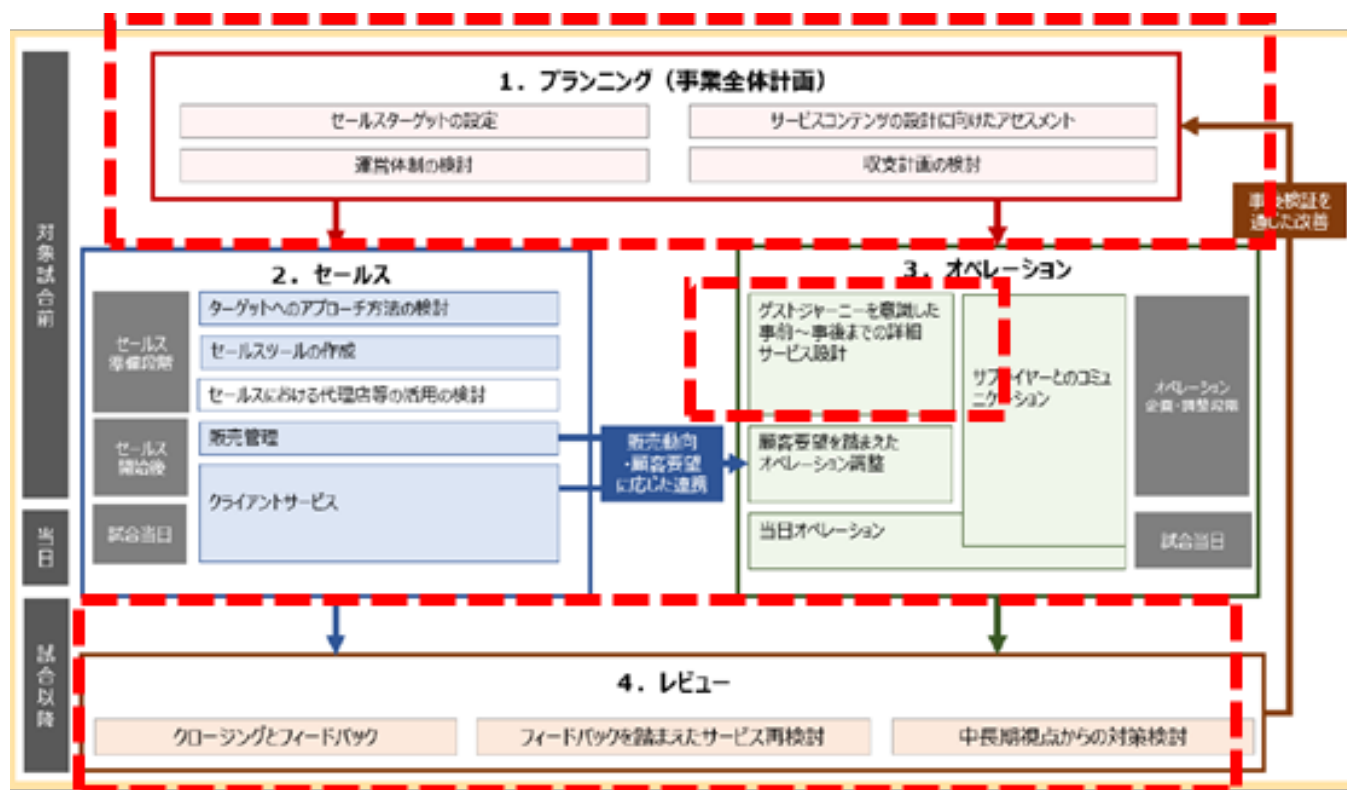
Application process

伴走支援の内容

スポーツコンテンツホルダーの皆様に対し、主にスポーツホスピタリティ事業フェーズにおける「**プランニングフェーズ**」、「**オペレーションフェーズの詳細サービス設計**」について、アドバイザー等の伴走支援を行います。また、**本番終了後には有識者によるレビューを実施し、今後の展開に向けたフィードバックを行います。**

※下図赤枠部分が支援対象領域となります。

※伴走支援対象団体の希望に応じ、事業フェーズの他分野につきましても、アドバイスを提供いたします。



(スポーツ庁発行 スポーツホスピタリティガイドブックより)

伴走支援の内容

1. 伴走支援期間

支援対象団体の決定日～令和9年3月12日(金)まで

2. 支援の対象テーマ

以下テーマについて、スポーツホスピタリティの統括・企画・運営に関わる経験が豊富な知見者・有識者の現地派遣及びオンラインでのコミュニケーションにより、各団体の検討内容に応じたアドバイスを提供します。

※詳細の支援内容は、対象団体の状況やニーズも踏まえ協議・調整していきます。

(1) スポーツホスピタリティの全体計画・オペレーション計画におけるアドバイス

・スポーツホスピタリティの全体計画の設計や、商品設計、オペレーション企画設計等について

(2) 地元資源の有効活用による高付加価値化方策に関わるアドバイス

・地元ならではの食材・飲料・ギフトの提供や、文化資源の連携・活用による装飾やエンターテインメントの提供等、独自性の高いソフトサービス提供による高付加価値の創出について

(3) ハード不足環境下での付加価値創出に関わるアドバイス

・VIPルームやファンクションルームの代替となるベニユー内外のスペース活用や、エンターテインメント等の付帯サービスの創出により、ホスピタリティ全体の付加価値を高める手法について

伴走支援の内容

3. 伴走支援決定後の流れ(※初回ヒアリングの段階で、支援対象団体の意向も伺い、詳細なスケジュールのすり合わせを行います。)

支援
決定

01



初回ヒアリング

基本情報(対象となる試合やベニュー環境、活用できそうな地域資源情報等)や、具体的な支援希望内容等は公募段階で集約。支援対象として決定した団体に対し、オンラインでその詳細をヒアリングさせていただきます。

02



現地視察・打合せ

有識者が現地を訪問。実施環境の視察及び、関係者との会議等の場で、課題解決に向けたアイデアや、ブラッシュアップ手法等についてアドバイスをを行います。

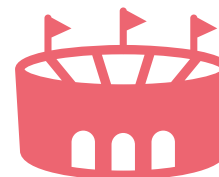
03



本番実施に向けた アドバイザリー

本番に向け、オンライン会議ツールやメールを通じた打合せやアドバイスを実施。(※実施回数やタイミングなどは事前協議)

04



本番視察・レビュー

本番時に再訪し、スポーツホスピタリティ実施の模様を視察。実施内容について有識者目線でレビューを実施。今後のブラッシュアップに向けたフィードバックやアドバイスを提供します。

伴走支援の内容

4. 伴走支援メンバー

各団体に対する伴走支援は、スポーツ庁「スポーツホスピタリティガイドブック」の執筆者であり、様々なスポーツホスピタリティの実務・統括・指導経験が豊富なジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミアの倉田氏及び、スポーツホスピタリティの企画・運営経験が豊富なJTBコミュニケーションデザインのメンバーが担当します。

株式会社ジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミア 代表取締役社長 倉田 知己 氏

各団体に対する伴走支援は、スポーツ庁スポーツホスピタリティガイドブックの執筆者であり、様々なスポーツホスピタリティの実務・統括・指導経験が豊富なジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミアの倉田氏を中心にメンバーを選定しております。

【スポーツホスピタリティに関わる経歴】

- スポーツ庁スポーツホスピタリティガイドブックの執筆者。
- 日本における初めての本格的なスポーツホスピタリティが全国展開された2019年ラグビーワールドカップ日本大会時の主幹者。2017年にはスポーツホスピタリティ専門会社であるSTH Japan社を英国STH社とのジョイントベンチャーとして立ち上げ、実績作りに貢献した。
- また東京2020におけるスポーツホスピタリティのグランドデザインを同組織委員会と共に策定しその準備にあたった。その後もプロリーグやプロ球団に対してセミナー講師やアドバイザーを歴任。現在は大学でスポーツホスピタリティに関する非常勤講師を務め、またスポーツ関連の学術界での研究発表の実績を積んでいる。

株式会社JTBコミュニケーションデザイン イベントプロデュース局 スポーツビジネス推進ユニット（当事業事務局）

以下、スポーツホスピタリティの企画・運営の実務経験が豊富なメンバーが、ホスピタリティ実施をサポートします。

- エグゼクティブプロデューサー 及川 明宣
- プロデューサー 牛嶋 將之
- プロデューサー 増田 雅之

※このほか個別テーマでの支援が必要な場合、別途各分野の専門家への依頼も検討していきます。

伴走支援の内容

5. 支援対象団体(皆様)に実施頂くこと

(1) スポーツホスピタリティ実施計画の共有

- ・スポーツホスピタリティの企画・販売・サービス提供に関わる計画やスケジュール(構想段階のものも含む)を、伴走支援の開始期に事務局へ共有頂きます。

(2) スポーツホスピタリティの企画・販売・サービス提供及び、参加者アンケート調査の実施

- ・(1)で計画したスポーツホスピタリティの企画・販売・サービス提供を、有識者のアドバイスも参考としながらブラッシュアップ頂き、実施してください。
また、本番時には事務局より支給するアンケートをホスピタリティ参加者に配布し、可能な限りの回答を得て下さい。

(3) 事務局への進捗報告

- ・実施までの段階で(1)の計画に変更を行う必要が生じた場合、事務局へ報告ください。
- ・このほか、遂行において生じた課題や販売動向等について、随時事務局へレポートしてください。

(4) 事業の効果検証・抽出課題等の最終報告

- ・スポーツホスピタリティの本番実施完了後、企画・販売・サービス提供の各ステップで生じた課題や改善点、得られた効果等について取りまとめ、報告頂きます。
- ・検証項目や取りまとめにあたってのフォーマットや提出時期等は、事務局である株式会社JTBコミュニケーションデザインより、別途指示いたします。

.....

(5) 事業終了後の協力

- ・このほか、次年度以降のスポーツ庁の事業等において、本年度の支援対象団体に対し、事後ヒアリングや取組発表等の機会を設ける可能性があります、その際はご協力をお願いします。

伴走支援 実施・募集概要

1. 実施趣旨、募集対象

Purpose of the program & Eligible Participants

2. 伴走支援内容

Support program details

3. エントリーについて

Application process

エントリーについて

- ・ 伴走支援を希望される団体は、別添の「伴走支援エントリーシート」を作成の上で、下記①～③を後述の宛先までご応募ください。
- ・ 支援対象となる団体は、有識者等による審査会を経て決定いたします。

応募に必要な書類

- ①伴走支援エントリーシート(Powerpoint形式)
- ②応募団体の概要
- ③暴力団体等に該当しない旨の誓約書

※①・③は、別途支給する様式を用いてください。②の様式は問いません。
※①～③はいずれもPDFデータ形式で提出ください。
①については、元データであるPowerpointデータも提出ください。

提出先及び 提出方法

●提出先及び募集に関する問合せ先

令和8年度「スポーツホスピタリティ推進事業」運営事務局(株式会社JTBコミュニケーションデザイン内)
E-mail : s-sh2026@jtbcom.co.jp

※本募集に関するお問合せは、件名を「【問合せ】スポーツホスピタリティ推進事業(伴走支援)」記載のうえ、電子メールで送付ください。(質問者のみが審査に有利となるような質問については回答できかねます。)

●提出方法

・「応募に必要な書類」に記載の①～④を、前記の運営事務局メールアドレスまで送付ください。
※提出時のメールの件名は『【応募】令和8年度「スポーツホスピタリティ推進事業(伴走支援)」』としてください。
※メール送信上の事故(未達等)について、当方は一切の責任を負わないものとします。

●募集締切

令和8年7月30日(木)17:00(必着)

●その他

・必要に応じて審査期間中に提出書類の内容確認のためのヒアリングや、追加資料の提出等を求める可能性があります。
・期限に遅れた企画提案書や期限後の企画提案書の修正、差し替えは受理いたしません。
・前述の誓約書の未提出者、虚偽の誓約をした者及び誓約書に反することとなった際は、支援対象外とします。

エントリーについて

今後の スケジュール

- 募集期間 : 令和8年7月9日(木)～7月30日(木)17:00まで
- 審査・選定結果通知 : 令和8年8月上旬～中旬頃を予定
- 伴走支援のスタート : 令和8年8月下旬～順次開始

※審査を経て、支援対象となった団体には、事務局より支給する「伴走支援の留意事項」にご確認・サインを頂いたうえで支援をスタートさせていただきます。

留意事項

- この伴走支援は、応募団体が検討を進めているスポーツホスピタリティの取組に対し、関連分野の知見者・経験者が「助言による支援」を行うものであり、国費による予算的な支援を行うものではありません。
- 初回の有識者の現地訪問については、支援対象団体とスケジュールを協議のもとで日程を調整させていただきます。また、オンラインを通じた打合せ・助言の実施回数等は、支援対象団体が決定後、個別に協議をさせていただきますが、必ずしもご希望される実施回数をお約束できないことをご留意ください。
- 伴走支援の有識者は、実際のスポーツホスピタリティの統括、企画、運営等に経験が豊富な人材を起用いたしますが、支援として行う助言が必ずしも応募団体の目標達成を約束するものではないことをご留意ください。

お問合せ先

【本事業に関わる連絡先】

スポーツ庁参事官(民間スポーツ担当)付 E-Mail: sminkan@mext.go.jp

【伴走支援希望団体の募集に関わる問合せ先】

株式会社JTBコミュニケーションデザイン(本事業委託先)

イベントプロデュース局 牛嶋・増田・及川 E-Mail: s-sh2026@jtbcom.co.jp